

校内研修計画

山梨市立山梨小学校

1 学校課題

21世紀は「知識基盤社会」といわれている。「知の創造・継承・活用」が基盤となる社会に主体的に関わることのできる児童・生徒を育て、送り出していくことが学校教育に求められている。そのため学校ではたくさんの知識を習得させるだけでなく、習得された知識や技能を生かした柔軟な思考力に基づく判断ができる児童・生徒を育成していかねばならない。しかし、PISA調査の結果や、全国学力・学習状況調査の結果を見ると、知識・技能を活用する力に課題が見られ、活用する力をつけるため、思考力・判断力・表現力の育成が、大きな課題として取り上げられるようになった。

現行学習指導要領では、「生きる力」（確かな学力・豊かな人間性・健やかな体）の理念とともに、改正教育基本法で示された学力の三つの要素「基礎的な知識・及び技能」「思考力・判断力・表現力その他の能力」「主体的に学ぶ態度」を育むことが重要であると明確に示している。「生きる力」の育成は、本校の教育目標に照らしても重要なことであるといえる。

「生きる力」の知の側面である「確かな学力」は、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や、自ら課題を見つけ、判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含んでいる。子供たちに「生きる力」を育むため、「確かな学力」を育成するという考えのもとに、思考力・判断力・表現力の育成を図るなど、学習指導要領に基づいた指導を充実させることが求められている。

2 研究主題

よく考え、すすんで学習する子供の育成
～対話力を高める指導の工夫～

3 主題設定の理由

昨年度の研究では、相手を意識した表現力の向上について様々な手だてを試みた。個で考える時間を確保したり、身近なペアで相談したりすることで、自分なりに考える習慣が付き、友達に伝える力や友達の意見を聞いたりする力が身に付いてきた。しかし、表現した内容を生かし、互いの意見を聞き合い、関わり合って学ぶという双方向の表現について課題がみられた。

日常生活では、挨拶、会話、伝達などが適切にできる力が必要である。また、学年に応じて場に応じて、必要な意見、感想を表現できるようにしていかなくてはならない。聴き取る力と伝える力を両輪とした対話力を身に付けることで、学びが深まっていくような学習を目指し、この主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

研究（1）

- ①対話力について講師を招いての学習会
- ②対話力に関する実態調査
- ③発達段階や教科の特性に応じた対話力の系統化
- ④ブロック別の研究会

・ブロックの課題の明確化

⑤授業実践

・ブロックごと1本ずつ（ブロック別の共同研究） 教科は自由

⑥一人一実践の取り組み

研究（2）

日常的な言語環境の充実

①話しやすいクラスの雰囲気作り

②聴き方・伝え方の指導

③語彙を広げる指導

④対話活動，読書活動，スピーチ活動，メモや日記の習慣化

年間校内研修計画

研究主任 橋本 尚一

テーマ	研究内容	教科	担当	学年	時期	TC
よく考え、力を高めるための学習指導の工夫の育成	研究主題・仮説・内容・方法・計画等		研究主任		4月	
	研究計画・研究組織・授業研究について		研究主任		4月	
	実態調査・対話力の系統化について		研究主任		5月	
	各ブロックの研究		ブロック長		5月	
	学習会		研究主任		6月	
	各ブロックの研究		ブロック長		7月	
	各ブロックの研究・個人の実践について		ブロック長・個人		7月	
	教育課程環流学習会・ブロック研究		教科主任,研主,ブ長		8月	
	ブロック研究		ブロック長		8月	
	各ブロックの研究		ブロック長		9月	
	授業案提案		研主,ブ長,授業者		9月	
	授業研究会①	未定	研主,ブ長,授業者	低	10月	○
	各ブロック研究		ブロック長		10月	
	授業案提案		研主,ブ長,授業者		10月	
	授業研究会②	未定	研主,ブ長,授業者	高	11月	○
	ブロック研究のまとめ		ブロック長		11月	
	個人実践のまとめ		各担任		11月	
	実践報告会		低・高学年ブロック		1月	
研究のまとめと次年度の方向性について		研究主任		2月		
研究紀要綴じ込み作業		研究主任		2月		